

## 森町

### 地形概況

北部は三倉川・吉川流域のせまい谷底低地と崖錐が形成されているが、田能から中野の広い山腹緩斜面は滑落崖をもつ地すべり地である。南部は太田川にそう三角州性低地や自然堤防からなり、山地と低地の間には一宮川ぞいに丘陵が発達する。

### 地質概況

泥岩・泥質砂岩の互層を主とする三倉層群の範囲が北部の山地に広く分布し、一部に犬居層群がはさまる。倉真層群・西郷層群・掛川層群の砂岩・泥岩は丘陵を構成する。太田川沿いの低地は砂層・砂泥層の沖積地で自然堤防は砂礫層となっている。

### 気象概況

年平均気温は推定 15.0℃、年平均降水量が 2,812mm(三倉)。山間盆地は概して風が弱く、日中の気温が高くなる。中部山岳地帯の南斜面に位置しているため、県内平均降水量より約 20%も多く 4月から8月にかけて全降水量の約 50%が降る。

### 災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9  
県中・西部に被害があった。当地では森で全壊1戸、一宮で全壊12戸、半壊23戸、園田で全壊25戸、半壊11戸、飯田で全壊12戸、半壊60戸などの被害があった。三倉・天方では全半壊はなかった。各地での震度は、鴨谷・谷中・園田・一の宮・中川で6、飯田で5~6、新町・草ヶ谷で5である。
- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9  
県中・西部に被害があった。当地では森で全壊1戸、一宮で全壊12戸、半壊23戸、園田で全壊25戸、半壊11戸、飯田で全壊12戸、半壊60戸などの被害があった。三倉・天方では全半壊はなかった。各地での震度は、鴨谷・谷中・園田・一の宮・中川で6、飯田で5~6、新町・草ヶ谷で5である。

### 災害事例 台風

- 1974年7月7日(昭和49年)台風8号(七夕豪雨)  
全県下に被害を与えた豪雨で、秋葉の最大日雨量は332mmに達した。当地の被害は死者1人、負傷者5人、全壊1戸、半壊2戸、流失9戸、床上浸水217戸、床下浸水494戸、冠水田畑35.47ha、決壊道路49箇所、橋梁8箇所、堤防8箇所、山崩86箇所であった。
- 1959年9月26日(昭和34年)伊勢湾(15号)台風  
県西部で被害が多かった。当地は森町三倉の大府川畔で全半壊家屋が多かった。また道路は周智トンネルなど各所で寸断、交通途絶した。
- 1911年8月4日(明治44年)  
飯田村では太田川洪水のため、橋梁流失2箇所、山崩2箇所、田畑の被害は甚大であった。一宮村でも堤防決壊31箇所、山崩れは数え切れないほど生じた。

## 災害事例 豪雨

- 1962年9月4日（昭和37年）

太田川上流大河内で4日2～3時の1時間雨量119mmの豪雨であった。太田川は急増水して、土砂崩れ・浸水により家屋に被害を生じた。